

産業構造審議会グリーンイノベーションプロジェクト部会（第12回）
議事要旨

- 日時：令和5年10月23日（月）10時15分～12時00分
- 場所：経済産業省別館6階626・628 + オンライン（Webex）
- 出席者：（委員）益部会長、國部委員、関根委員、望月委員
（オンライン）大野委員、栗原委員、玉城委員、渡辺委員

■ 議題：

1. 主なプロジェクトの進捗及び成果の報告
2. モニタリングに関する報告
3. プロジェクトの追加・拡充等に係る承認プロセスについて

■ 議事要旨：

事務局等より、資料2、資料3に基づき説明があり、議論が行われた。委員等からの主な意見等は以下の通り。

1. 主なプロジェクトの進捗及び成果の報告

- 個別のプロジェクトが進捗しており心強い。GI基金事業の特徴として研究開発が長期にわたる点や現在の進捗状況などについては、対外的な広報活動及びメディアへの説明等を継続的に進めていく努力が必要。
- 業界への理解・文化の形成・次世代人材の育成といった観点から、GI基金事業のような国としての大きなチャレンジを若者とりわけ小中学生に向け積極的に広報して頂きたい。
- 物事には成功と失敗がある。失敗した場合は勇気ある撤退を認めていくようにして頂きたい。撤退には大きな痛みを伴うが、ステージゲートを内輪のものにせず、真に日本の産業競争力の強化につなげるためには失敗事例を拍手で送り出すとともに成功事業に追加投資することも重要。
- 想定どおり進捗していない部分が必ずありここについて難しい議論が必要であるはずのところ、報告の中でこの点が見えてこないことに不安を感じる。むしろうまく進んでいない案件について、その具体的な理由も含め部会で報告頂きたい。
- 世の中の流れがはやい中、研究開発を継続するのか中止するのかを見極めて頂きたい。
- 値差支援は、水素以外の他の燃料においても取り入れる必要があるのではないか。
- 全ての報告において標準化の重要性が述べられている。力を入れて進めてほしい。特にグリーンスチールについては定義がまだ定まっていないとのこと、可能な限り早く安く作ることが結果的に標準化に繋がっていく。ここを意識して推進してほしい。
- 現時点の進捗として、化石燃料を主体とした従来法と現在の取組との間でコスト比較はなされているのか？課題と利点の明確化のために行うべき。

- 現在想定しているエンドユーザー以外のユーザーアプリケーションとの連携はどうなっているのか？
- 今回の報告のように GI 基金全体を俯瞰できるようにしてほしい。基金全体及び各プロジェクトの進捗がわかりやすくまとめられていること自体が国民、国内外に向けた環境整備に必要不可欠である。
- カーボンニュートラルに向けてどれくらいのことが進んだのか。製造から撤去・資源循環に至るまでの最終的なシナリオとインパクトが可視化されるとよい。可能な限り部会で共有して頂きたい。

2. モニタリングに関する報告

- CO₂ 削減の全体見通し・シナリオを今後に示していくことが重要。コストを明示的に示したシナリオによりプロジェクトの進捗や意義が明確化されるとともに、国内外への情報発信を進めていくことが、日本にとって意味のあるルールメイクにもつながっていくのではないかと。
- まずは国内市場を立ち上げてから国際市場に拡張していくという点について、本当にこの順番がいいのか念頭に置きながら進めて頂きたい。
- 標準化については、産業技術総合研究所の活用や幅広い分野の専門家の招聘など国としての戦略的な取組促進が必要。
- 国際的な競争環境のモニタリング、戦略的なルールメイキングの重要性、ユーザー側との連携による市場形成など各ワーキンググループ間で課題は共通しており、プロジェクト実施機関だけでなく政府や研究機関がこれらの点をモニタリングしていくことが重要。
- 各プロジェクトの CO₂ 排出削減効果を明確化してほしい。
- 各プロジェクトについて技術の進捗のみならず市場性や競合状況をモニタリングしていく必要がある。NEDO 委員会の拡充や第三者の関与もあり得る。
- プロジェクト間で合従連衡していく可能性があると考え。統合の方向性が見えてきたときに、どう推し進められるかが課題と感じた。
- この部会で議論することではないかもしれないが、GI 基金事業で生まれた技術が GX にて実装されていく際、新しい技術の創出によって縮小していく従来産業にどう対処していくのか議論が必要。
- 世界的な技術開発速度がはやいことから、すべてのプロジェクトでステージゲートの時期や年度に関わらず、解決すべき課題が明確化した時点で速やかに情報共有可能な体制作りが必要。
- 情報共有やモニタリングを随時進行し、フォローアップ、場合によってはその時々での判断で再配分が可能となるような仕組み作りを引き続き実施していただくとよい。
- もし経営者が WG へ出席せずコミットが見受けられない企業がある場合は、すぐに撤退して頂くことを推し進めることが必要。

- 最近、人材難等の事情もあり、大企業のスタートアップへの見方が変わってきている。いい技術もでてきていることからスタートアップがGI 基金事業にうまく関与してもらえるとよい。
- 広報活動の重要性は理解できるが、研究者が駆り出されることが多い。研究開発側の負担になって研究進捗が遅れないようにしてほしい。
- あるプロジェクトを中断するとなった際に、ポテンシャルのある技術のリストを作成しておき、機動的な変更を可能にしておくべき。
- 昨今の国際的緊張が事業に与える影響も注視する必要あり。

3. プロジェクトの追加・拡充等に係る承認プロセスについて

- 昨今の労務費及び建設費等の高騰について対処する場合はどのケースに当てはまるのか。
→今回示した整理とは別の事情であることから、必要に応じて個別に議論するものと考えている。
- 世の中の動きが速い中、機動的な追加拡充が必要。他方、ある程度のシーリングも必要。まずはこの案で進め必要に応じて見直すのがよい。

以上

（お問合せ先）

産業技術環境局 エネルギー・環境イノベーション戦略室

電 話：03-3501-1733

F A X：03-3501-7697